

会長挨拶



1947年4月15日の開幕戦は黒人選手が初めてメジャーリーグのスタジアムに立った日です。ブルックリン・ドジャースのホーム、エベック球場に背番号42のユニホームに袖を通した黒人選手の名はジャッキー・ロビンソンです。大歓声を受けながら、戸惑いと喜びの混じった表情でグラウンドに入る黒人選手を観客は見つめ、今日この試合がただ

の野球試合でないことを理解し、その興奮が球場全体に広がっていくのを知るのでした。

今日はジャッキー・ロビンソンデーです。この偉人にちなんで42番は永久欠番となり、4月15日は逆にすべてのプレイヤーが42番の背番号を背負う日です。

ジャッキーを内外の反発を押し切ってブルックリン・ドジャースに招いたブランチ・リッキー会長は彼に初めて会った時に口にした言葉は「どんな逆境にさらされても、決してやり返さない本当の勇気を持ってほしい…出来るか?」でした。陰湿なヤジ、あからさまな言動を受けた時、彼の言葉を繰り返し自身に唱えてジャッキーは堪えました。彼は自制する根性で人種差別問題と戦ったのでした。このことは力道山が訴えた「闘え!」と同じ事であります。

朝鮮半島出身の力道山潰しの計画は柔道の鬼と謳われた木村政彦を動かす裏の力から始まり、次に元横綱東富士を担いでヒーロに仕立てようとするリング下の暗躍や策謀を、力道山は逆にリングというフィクションの場所を利用してすべて消してしまいました。

日本というリングにおけるハンディキャップ・マッチを百田光浩(金信洛)は力道山というフィクションの力を利用して闘い抜いた人生だったのではないのでしょうか。

田中敬子夫人がこの本「夫・力道山の教え」で伝えるのは、闘え・生きろ・老いるな!です。甘えて生きる昨今の我々に空手チョップの一撃を浴びせ、目を覚まさせる1冊であります。

しかし全編何度か読ませていただくと、力道山が本当に愛した女性、愛された田中敬子という女性の自信や優しさが行間から滲んでくるような本でした。続きはこの本をご購入して頂きまして、短いですが本日の会長挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



力道山のお墓(池上本門寺)



池上本門寺

第59代 大宮ロータリークラブ会長 岸 聡

お客様



- 大宮南東ロータリークラブ 会長 大橋令子様
- 力道山夫人 田中敬子様

卓話 「夫 力道山の教え」 力道山夫人 田中敬子様



主人は百田姓ですが13回忌が終わりまして、田中姓に戻しました。本日はこのような場でお話させていただく機会をいただきまして大変ありがとうございます。「力道山の奥さんってまだ生きていらっしゃったのですか」とよく言われます。主人は生きていたら今年で91歳になります。16歳の年の差がありましたので、当時私が22歳で結婚した時にはあまりにも歳が離れていてビックリされたことと思います。オリンピックの前の年にあいう事故がありました。私が主人と結婚して半年目、つきあい始めて1年半の短い期間でしたが毎日が1年ぐらいのような感覚でした。お陰様で70歳は過ぎてこうして生かさせていただいているのは、皆さんのお陰で元気をもらっているよ、と皆様がいろいろお話を下さって反対に皆さんから私が勇気と元気をいただいており、いつも主人には感謝しております。今日は主人の生い立ちからプロレスラーになるまで、そして結婚に至るまでのお話したいと思います。(詳細別紙)

紹介者: 大宮南東クラブ 大橋令子会長 大宮南東ロータリークラブとしては最後のメーキャップになると思います。長いこと会長幹事をしておりましたので一緒にされた皆様にはなにかと迷惑をおかけしました。今日は不思議なご縁でお知り合いになりました力道山夫人、岸会長よりぜひ大宮ロータリークラブでお話をとということで本日実現することとなりました。よろしくお願致します。



米山奨学生ごあいさつ



傅 煥翔(フ カンショウ)さん  
 (埼玉大学/中国)  
 カウンセラー 小川和信会員



4月分奨学金  
 これから2年間お世話になります。  
 よろしくお願致します。



米山功労者感謝状  
 遠藤省吾会員(7回目)



大宮ロータリクラブ  
 16,000人目のお客様  
 記念品贈呈

